

【第51期初級陸曹特技課程「准看護師」 入校式】

令和8年4月2日（木）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、北部方面総監部医務官、北部方面衛生隊長等のご臨席を賜り、第51期初級陸曹特技課程「准看護師」の入校式を挙行了。入校学生27名（男性12名、女性15名）は、一人一人が力強く申告を行い、准看護師たる衛生救護陸曹となるべくスタート地点に立った。

学院長は、式辞で「入校に当たり、将来に期待し支えてくれた方々への感謝を忘れず、これから2年間の様々な困難にも同期の絆を大切に一致団結して乗り越えてほしい。」と述べられ「学院一丸」及び「日々前進」の二つを要望した。

続いて、病院長（菊池陸将）より訓示があり、この中で「自主的に学べ」及び「果敢に挑戦せよ」の二点の要望があった。一点目の「自主的に学べ」については、「衛生救護陸曹として活躍を期待される中で、仲間の命に関わる任務に従事するとの覚悟を持ち、受け身になることなく自主的に勉学と訓練に励んでもらいたい」とし、二点目の「果敢に挑戦せよ」については、「困難や試練に直面しても初心と目的意識を忘れず、妥協せず挑戦し続けることが大切、若いうちは失敗を恐れず取り組める時期であり、その姿勢を持ち続ければ必ず成長するはずである。いかなる任務にも即応・完遂できる衛生救護陸曹になることを期待する」と、これから2年間の学びと成長に対し期待の言葉を贈った。

ご来賓を代表して北部方面総監部医務官（佐藤1佐）は、「一人一人が常に仲間を思いやりをもって、助け合いながら、互いに切磋琢磨し、2年後には同期とともに成長し、頼もしい衛生救護陸曹となって巣立っていくことを楽しみにしています」と祝辞を述べられた。

入校した学生27名は、今後2年間、お互いに切磋琢磨しながら准看護師としての知識と技術の習得に励むとともに、仲間を思いやる心と誇りを備えた衛生救護陸曹を目指し、一致団結して教育に臨む。



病院長訓示（菊池陸将）



学院長式辞（本間1佐）



申告



拝聴する学生



拝聴する学生



国歌斉唱



集合写真 (准看護学院)